

最優秀作品賞

日本民営鉄道協会 会長賞

「TOBU鉄道新聞 くらしと鉄道特別号」

栃木県／栃木市立大宮北小学校

山口静也

僕が3年生のとき、第1回の小学生新聞コンクールが開催されました。その時、僕が電車が大好きなのを知っていた担任の先生がすすめてくださって、4年から毎年参加しています。

コンクールのテーマは「くらしと鉄道」ですが、今回、僕は、東武鉄道が開通してから町がどんなふうに変化してきたのか、僕たちのくらしがどう変わってきたのかを調べてみることにしました。東武博物館で調べたり、東武の駅で駅員さんに取材したりして分かったのは、東武の発展とともに町が発展していったということです。鉄道が走っていたから、町が発展し、僕たちのくらしも便利になっていったということがよく分かりました。東武と町の歴史を表現したかったので、写真の代わりに、僕たちの町を走っていた東武の歴代の車両の絵を描きました。

参加できる最後の年に、最優秀作品賞を受賞することができて、とても嬉しく思っています。ありがとうございました。



第4回

私とみんなてつ

小学生新聞コンクール表彰式を開催

受賞者16名・受賞校6校が出席

最優秀作品賞1点は駅ポスターに

「新聞づくり」を通じて、子どもたちに鉄道や民鉄に対して関心と理解を深めてもらうことを目的に開催されている「『私とみんなてつ』小学生新聞コンクール」。第4回となった昨年は、全国403校から4774作品の応募があり、厳正な審査を経て選ばれた個人賞・学校賞の表彰式が1月8日（土）に開催された。



受賞者の皆さんと主催者・後援者の役員



主催者挨拶をする上條会長



表彰式風景



全国小学校社会科研究協議会の久保田会長

次代を担う子どもたちに鉄道の役割への理解を深め、鉄道をもっと好きになってもらいたい——そんな願いから、全国小学校社会科研究協議会の後援を得て始まった『私とみんなてつ』小学生新聞コンクール。回を重ねるごとに授業や夏休みの自由課題などで活用する学校が増えているが、「低学年に新聞づくりは難しい」という声に応え、今回から1・2年生を対象に「絵日記風の新聞」の受付を開始した。また、個人賞は従来から新聞形式の作品が対象となるため、1・2年生の応募を対象とした学校賞、若草奨励賞も新設している。

その結果、第4回目を数えた昨年の新聞コンクールには、全国から403校が参加。うち新聞形式と絵日記風の混合応募は26校、絵日記風のみは応募は23校に上った。応募作品数も全4774点のうち絵日記風が1375点を占め、1年生から6年生まで幅広い学年の力作が集まった。応募者も年々地域的な広がりを見せ、今回は46都道府県からの参加となっている。

これら応募作品のなかから、昨年12月中旬、日本民営鉄道協会加盟各社ならびに全国小学校社会科研究協議会の審査委員による厳正な審査を経て、個人賞・学校賞が選ばれた。個人賞では最優秀作品賞1作品・優秀作品賞5作品・奨励賞8作品・みんてつ特別賞2作品・佳作21作品、学校賞では最優秀学校賞1校・優秀学校賞5校・奨励賞7校・若草奨励賞5校を決定。佳作受賞者を除く受賞者16名、奨励賞を除く受賞校6校が出席して、1月8日（土）、東京會館東商スカイームにて表彰式が開催された。

優秀作品賞

日本民営鉄道協会 広報委員長賞

「京成電鉄のひみつ新聞」 千葉県/成田高等学校付属小学校 原柊太郎

先生に、この新聞コンクールを教えてもらって初めて応募しました。車より電車の方が好きで、鉄道に興味があったので、京成電鉄のひみつを調べてみようと思いました。調べてみると、使わなくなった駅があったり、「初めて、がたくさんあったり、新しい発見がたくさんありました。文章にまとめた絵を描いたりするのは大変だったけど、楽しく上げることができました。パンタグラフの形とか電車のいろいろなことに興味湧いてきたので、次回ぜひ参加したいと思っています。



「メーブル新聞」 東京都/日野市立潤徳小学校 関 杏花

京王の高幡不動駅でポスターを見て、3年生のときから参加しています。この新聞コンクールに参加してから、いろいろなことを知って、鉄道っていいなあと思うようになりました。一昨年の秋、父は仕事中に倒れて、現在も通院リハビリ中です。身体が不自由になってしまった父にやさしい電車だったらいいなと思って、今回は、安全とバリアフリーについて調べて記事をまとめました。これまでに佳作に入選したことはあるけど、優秀作品賞に選ばれたのは初めて。父もとても喜んでくれました。



学校賞部門

最優秀学校賞

日本民営鉄道協会 会長賞

愛知県/扶桑町立柏森小学校



子どもは、褒められること、評価されることが成長につながります。しかし、習字や絵のコンクールでは、子どもたちの技術レベルに差があるため、得意とする子と苦手な子では取り組みの姿勢に差が出てしまいます。みんなで取り組めるものはないかと探して新聞づくりに行き当たり、授業に活用しました。新聞づくりを通して、子どもたちのまとめる力、調べる力は確実に向上します。また、切符を買ったことがない、電車に乗ったこともないという子どもたちが増えるなか、地域の鉄道の駅や電車を題材に新聞を作成することは、地域を学ぶ絶好の機会となります。これからも続けていきたいと思っています。

全国小学校社会科研究協議会 会長賞

「民鉄わくわく作戦新聞」

長野県/上田市立川辺小学校 守屋深太

上田電鉄の別所線は、地域の住民や観光客の鉄道利用を増やしたいとさまざまな取り組みをしています。僕の家族はみんなで出かけるとき、電車を利用します。僕たちが知っているその便利さを、ふだん利用しない人たちに伝えたいと思って、新聞をつくりました。新聞を見た人が「ああ、そうなんだ」と興味をもって読んでもらえるように、見出しや字の大きさ、組み方、色使いなどに工夫を凝らしました。努力が評価されて本当にうれしく思っています。家族もとても喜んでくれました。



「SL新聞」

静岡県/
常葉学園大学教育学部附属橋小学校
山村健斗

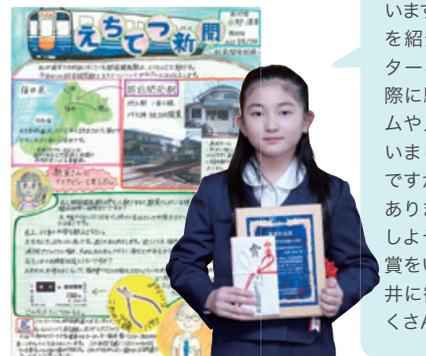
大井川鉄道にはSLが走っています。僕はSLが好きです。大きな汽笛を響かせて、モクモクと蒸気を出して、それはもうにぎやかで、一生懸命「走っている、って感じがするんです。ほかの電車はただ普通に走っているって感じなんですけど、SLからは「頑張るぞ、っていう気持ちが伝わってくる。そんなSLの魅力伝えたいと思いました。紙面全体をSLの顔にして、そこに路線図や写真を配置しました。SLに乗ったことがない人は、とにかく一度乗ってほしい。絶対、感動するはずですよ。



「えちてつ新聞」

福井県/福井大学教育地域科学部附属小学校
水野清香

私はえちぜん鉄道に乗って通学しています。家の最寄り駅の「越前開発駅」を紹介する新聞をつくりました。インターネットで調べるだけではなく、実際に駅員さんに取材をして、島式ホームや入線バサミの写真も撮らせてもらいました。毎日、乗っているえちてつですが、初めて知ったことがたくさんありました。楽しく読みやすい新聞にしようと、時間をかけてつくったので、賞をいただいととてもうれしいです。福井に観光に来た方にも、えちてつにたくさん乗ってほしいと思います。



最優秀作品賞はポスター化して3月末日まで、日本民営鉄道協会加盟72社の駅に掲出している。
また、今年も7月から「第5回『私とみんてつ』小学生新聞コンクール」を実施する予定だ。次回はどんな作品が集まるか、関係者はいまから心待ちにしている。

久保田会長は「コンクールは、私たちのくらしと鉄道について考えるよい機会を与えてくれた。自分の目で見て、自分の耳で聞いて、そして自分自身で考え、人に伝えるためにまとめていく。これは新聞づくりだけではなく、日々の学習や生活のなかでも大切なこと。みなさんの作品はどれも、自分の目と耳と足を使い、よく考えて自分の思いを表現したすばらしい作品」と、子どもたちの作品を高く評価した。

「くらしと鉄道」について考える
表彰式では、日本民営鉄道協会の上條清文会長（東京急行電鉄株式会社会長）が主催者挨拶に立ち、続いて、全国小学校社会科研究協議会の久保田福美会長がお祝いの言葉を述べた。